
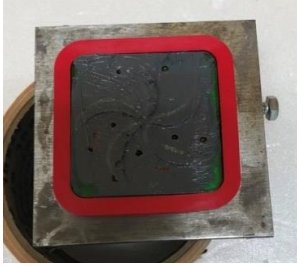
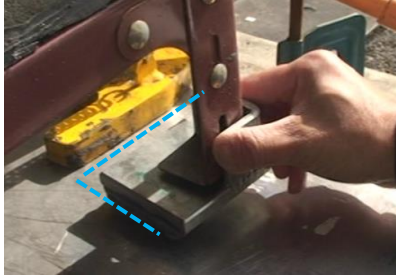
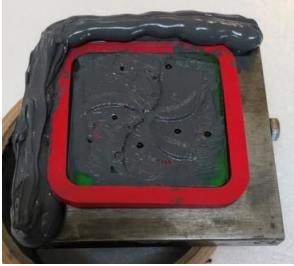







## ■ 施工前にご用意いただくもの

			
専用治具	土手代替芯材	安震V3・安震α	専用接着剤 安震アイバ・ノズル
			
コーキングガン	ヘラ	ウエス・アセトンやI.P.A	ガムテープなど、空洞のあるもの

## ■ 施工手順

	手 順	ポイント
①	 <p>【必須】設置箇所・治具の掃除                      (1)アセトン剤とウエス等にて、設置場所の汚れを取り除いてください。                      (2)I・P・A(イソプロピルアルコール) とウエス等にて、治具の裏面と「安震V3」接着面と設置場所の脱脂を行ってください。</p>	<p>ゴミ・塵・油分の無いように、必ず汚れを取り除いてください</p> <p>施工不良になる原因の一つです</p>
②	 <p>先に穴をあけてください</p> <p>「専用接着剤安震アイバ」の挿入口を先端の尖ったもので穴をあけ、ノズルを装着します。                      その後、ノズルをニッパー等で斜めにカットします</p>	 <p>直径5mmほどの穴が最適です</p>
③	 <p>上記手順②で組み合わせたカートリッジをコーキングガンにセットします。                      「安震V3」を1枚取り出し、フラットな面のリングの中心にアイバを付けます。  <b>治具側になります</b></p>	<p>「安震V3」に付けるアイバの量は、豆粒大の大きさが十分です</p>
④	 <p>③でアイバを付けた面の「安震V3」を治具側にして専用治具に貼りつけます。                      その後、「安震V3」に土手代替芯材を装着します  <b>「安震V3」の凸面になっている方が床の設置面です</b></p>	 <p>治具裏面には、「安震V3」を貼る目安の線があります</p>

	手 順	ポイント
⑤	 <p>「安震V3」の床面側にアイバを薄く塗布します</p>	<p><b>「安震V3」の床面側にアイバを塗る</b>  <b>メリット……</b>                  「安震V3」に塗布したアイバが、潤滑油の役割をし、設置時に位置の微調整が可能になる  <b>デメリット……</b>                  後日、レイアウトを変更したい場合、「安震V3」が床面に残ってしまうので、「安震V3」の再利用が出来ない</p>
⑥	 <p><b>もし、設置時、安震アイバの注入が出来ない箇所の場合</b>                  水色の点線部分は、設置後、アイバを注入することは困難です  <b>その場合、手順⑦を行ってください</b></p>	<p><b>「安震V3」の床面側にアイバを塗らないと？</b>  <b>メリット……</b>                  施工後、目地のアイバにカッターで切込みをいれるだけで治具が取れるので、「安震V3」の再利用が可能です  <b>デメリット……</b>                  設置時に位置決め微調整が困難になります</p>
⑦	 <p>ガムテープなどを数本重ね、空洞に治具を固定させて、隠れてしまう面に、事前に、安震アイバを先に塗布しておきます</p> <p><b>その際のアイバの高さは11～15mm程</b></p>	 <p>アイバの量が少ないと、施工不良の原因となります。</p>
⑧	 <p>設置設備を載せ、位置を決めます</p>	<p>⑤で塗布したアイバが、<b>微調整</b>の役割をします</p>
⑨	 <p>アイバを注入します。押し戻しがあるまで、しっかり入れてください。</p>	
⑩	 <p>ヘラでアイバを押し込むように、表面を均します</p>	<p><b>アイバを入れる量が少ないと、施工不良になる恐れがあります</b></p>
⑪	 <p><b>12時間以上経過後、ボルトをしっかりと締めます</b>  <b>12時間以内は、「安震アイバ」がまだ硬化していないため、締付けはNG</b></p> <p><b>締付トルクを目安値</b>  <b>0.9 +0.1 N-m のトルクにて締付けてください。</b>                  ※対象物の強度により、このトルクは目安となります</p>	<p><b>バランス、重量</b>によっては、<b>付属のボルト</b>を入れ替えてご使用いただく場合がございます</p> <p>対象物の強度が弱く、対象物自体が動いてしまう恐れがある場合は、治具と対象物を「安震アイバ」で接着することもあります</p>